



公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第94号 2015年3月18日 発行

医療・福祉機器開発ニーズ紹介セミナー報告

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 **進藤 浩美**
 城北病院 **小池 隆行**

石川県と(公財)石川県産業創出支援機構では、「いしかわ型健康創造産業」を創出することを目的として、「医療・福祉機器製造、健康サービス」産業の振興に向けた医商工連携促進の活動に取り組んでいる。1月21日(水)石川県リハビリテーションセンターにおいて、作業療法士とものづくり企業との出会いを提供していただいた。作業療法士のニーズ・アイデアを、新商品・新事業の創出に結びつけていく第一歩となった。参加者は約50名で、5名の作業療法士が作品を発表した。終了後も、多くの方に使っていただくための熱心な議論がされた。当日の発表した小池作業療法士より作品を紹介していただく。

◆作品の紹介◆

小池からは「関節機能に障がいのある人が自立生活を送るための工夫-関節リウマチを例に-」とのタイトルで、以前賞を頂いた「らくらくオセール」という作品について発表した。関節リウマチの作業療法では、破壊された関節機能を補う自助具がこれまで多く開発されている。今回対象としたのは手指の重度の変形と疼痛により電動ベッドのリモコン操作が困難になった症例で、他の日常生活は電動車いすやポータブル便器を使用することで自立しており、ベッドから起き上がる時だけに人の介助を要する状態となっていた。電動ベッドのリモコンはボタン式で代替品もないため、図に示したようなレバーを取り付けることで、健常な関節を使用し、痛みなくリモコン操作が可能となった。これにより介助を要さずに起き上がることが可能となり、結果、一連の生活動作が自立した。今回のセミナーでは、手指の状態に応じて計4名の方に使用した結果と、関節リウマチの分野で多く使用されている自助具も合わせて紹介し、自立を促す支援の考え方とユニバーサルデザインの視点について述べさせていただいた。

小池氏が開発した 「らくらくオセール」



医療・福祉機器開発ニーズ紹介 セミナーの作品名と発表者一覧

作品名	発表者	所属
調理動作の流れを考慮したエプロンの工夫 -バランスが不安定な高齢者や障がいのある人のために-	東 ひとみ	石川県リハビリテーションセンター
子どもの発達・生活を助ける道具づくり	今井佐智子	金沢こども医療福祉センター
重症心身障がい児施設からの提案 -動くことや感覚・運動経験の視点より-	瓦田 淳平	小松こども医療福祉センター
高齢者が安全で機能的に作業できる安楽と机上作業が可能な椅子の開発	西谷すずな	介護老人保健施設 ふうらいじゅ
関節機能に障がいのある人が自立生活を送るための工夫 -関節リウマチを例に-	小池 隆行	城北病院

達人OTセミナーに参加して

木島病院 桂 靖典



12月14日（日）石川県リハビリテーションセンターで達人OTセミナーが開催された。テーマは「内部障害」、講師は大阪大学医学部附属病院の高島千敬先生をお迎えした。自分は前日の病院医療部部員と高島先生の懇親会から参加したが、先生が語られる内容の次元の違いに、正に「格」の違いを実感した。

セミナーは48名が参加し、9時から始まり予定時刻の16時を超過する内容の濃い講義であった。

午前には内部障害の基礎知識、フィジカルアセスメントで、生理学や胸部レントゲン、心電図、血液データの見方も含め、しっかりと基礎から学ぶことが出来た。参加者のほとんどがペンを動かしており、高島先生だけでなく参加者の熱心さで、外の天候とは反対に会場は熱気に溢れていた。

午後はウトウトしている参加者が多いかと予想していたが全く異なり、午前の熱気を冷やすことなく、ペンを動かしている参加者がほとんどであった。ADLやIADLへの介入方法、呼吸器疾患や心疾患へのアプローチなど非常に実践的な内容であった。更に臨床で簡易に使用できるBorg ScaleやMETsを使用した運動強度の見方など、特別な機器を持たない我々でも身近に感じられる様に工夫されていた。また、2枚のスライドでA4用紙一枚という贅沢な資料も、今回の熱心な勉強の一助となったと思う。

今回学んだ内容を活かし、内部疾患に積極的に関わるOTが増えていくことを願っている。

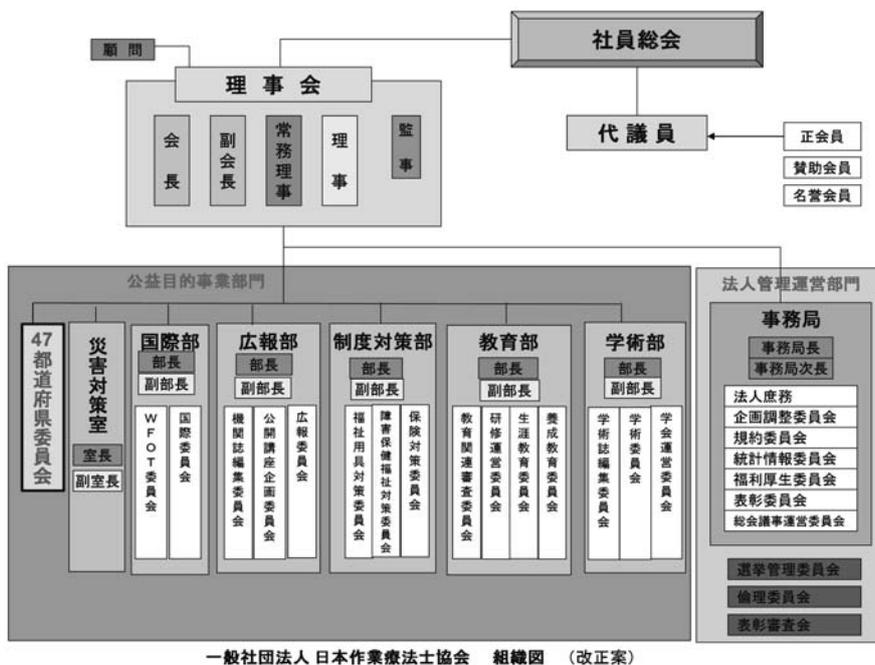


一般社団法人 日本作業療法士協会に47都道府県委員会ができる!!

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 進藤 浩美

1年余り、47の都道府県の作業療法士会と日本作業療法士協会と協議してきたが、ついに協会と当会が協定書を交わすことを総会で報告する。27年度47都道府県の作業療法士会がすべて協定を結ぶことになる。目的は、

わが国における作業療法士の普及発展を図るために有機的な協力関係を構築し、職能が共通して直面する諸課題に一致団結して対処することである。この連携と相互協力する事業は、次のとおりである。
 (1) 作業療法士の学術の発展、(2) 作業療法士の技能の向上、(3) 作業療法士の有効活用の促進、(4) 作業療法の普及と振興、(5) 内外関係団体との提携交流、(6) 大規模災害等により被害を受けた人の自立生活回復に向けた支援、(7) その他両会の目的を達成するために必要な事業である。組織は図のとおりであるが、将来的にはこの委員会と協会の各部が連携することになる。



在宅支援部研修会に参加して

訪問看護ステーション つくし 高橋 杏奈

1月24日(土)、石川県リハビリテーションセンターにて在宅支援部の研修会に参加した。厚生労働省は、リハビリテーション専門職等を活かした自立支援に資する取り組みを強化するために、「地域リハビリテーション活動支援事業」を一般介護予防事業に新たに位置づけた。地域包括支援センターと連携しながら、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職種等の関与を促進している。今回の研修では、加賀市・小松市・津幡町それぞれの地域・自治体で、実際に地域包括のケア会議や介護予防事業など諸活動に参加されている先生方の取り組みについて貴重な講演を聴くことができた。地域ケア会議等の場で、他職種と情報共有しながら、課題を抽出し解決策を検討していく過程で、OTが出来る能力や生活機能を評価しマネジメントする視点は、自立支援に向けての取り組みのなかで重要になってくると感じた。また講演の後のグループワークでは、自分の地域でケア会議へ参加することになったら何が必要になるか等話し合った。様々な場で働いている先生方からの意見はとても貴重で関心深く、医療職だけでなく地域住民と関わりを持つていくため、自分たちの考えを理解してもらうためのコミュニケーション技術や地域にある資源についての知識を深めることの大切さ、OT同士連携を図っていくことの重要性を学んだ。今後、リハビリ専門職は地域生活を支えるために重要な役割を担っていく。自分自身、OTとして専門的な視点から助言できるよう成長していきたいと思う。



生活行為向上マネジメント トピックス

金沢脳神経外科病院 認定作業療法士
公益社団法人 石川県作業療法士会MTDLP推進委員長

東川 哲朗



『生活行為向上マネジメント研修会』を1月から2月に掛け県内3地区で開催することができた。多数の方（能登：27名、加賀：56名、金沢65名）に参加頂き盛況に終了することができた。長時間の講師を務められた塩田繁人氏（高松病院）に感謝したい。

県士会が主催してきた本研修会は次年度より年1回の開催予定で、その研修会には他職種の方にも参加頂くことになる。その概要をどの様なものにしていくかは、協会の本プロジェクト推進委員会からの指示を待ちたい。

参加された方は、いかがだったであろうか。作業療法のプロセスがすっきり整理できたのではないだろうか。若干難しかったのは予後を考えるとところだったかもしれない。この部分は文献や経験値を高めること、あるいは観察眼を養うことで力を付けていって頂きたい。

次年度の計画で言えば、県推進委員会の案として、実践力の強化を図っていききたい。その為に、今年度の研修会と同様、各支部で事例検討会を開催していく予定である。その中で、推進委員の中で練った事例を参考事例として演習を行いながら、皆さんからの提供事例を通じてスキルアップを図っていく予定である。6月までに各支部で2回毎開催することを目標にしている。是非、参加して頂きたいと思う。

さて、私は1月31日（土）・2月1日（日）の両日、東京で開催された『生活行為向上マネジメント全国推進委員会』に出席してきた。約130名の参加者で会場となった秋葉原の貸会議室は一杯となった。会場の壁には各県毎の啓発グッズの幟が掲示され、さながら何かの決起大会の様相を呈していた。

その中で、求めに応じて本県の取り組みについて報告してきた。取り組み内容は、昨年から今年に掛けて開催したリーダーを中心とした三役の出張研修、各地域のリーダー選定、啓発リーフレットの作成などである。これらの取り組みは中村協会長からも「石川県は頑張っている」と評価頂いた。地域リーダーの選定はまだ途中段階の地域もあり、なるべく早急に準備を整えたい。

2月6日には平成27年度介護報酬改定の概要も発表された。皆さんはご覧になったでしょうか。私たち作業療法士がやるべきことは何か。そういうことが明確に示されたと感じる。細かな内容はこれまでの研修などで提示してきているので省くが、『活動と参加』のレベルにしっかりと取り組もうということである。中村会長の言葉を借りれば、「スタートラインは準備したと言われている。頑張って走りだそう。」と言う事である。一緒にスタートを切っていきましょう。

最後になるが、石川県士会の『生活行為湖上マネジメント』啓発幟を紹介する。キャッチコピーは推進委員に考えて頂いた「あなたの生活の可能性を支援します」とした。また、行政・他職種に作業療法やマネジメントをお伝えするリーフレットを作成した。こちらには、リーフレットを利用して啓発した作業療法士が名刺を貼るスペースを設けた。ご活用頂きたい。

会員が語る

先輩が語る

石川県リハビリテーションセンター 認定作業療法士 濱 昌代



作業療法士になって今年で30年になる。これまで病気もせずに仕事を続けてくることができたことは、周囲の支えがあったからこそと感謝している。今回このような機会をいただいたので、これまでお世話になった恩師や先輩をはじめ、職場の方々、友人、そして家族に改めて感謝の気持ちをお伝えしたい。

病院、保健所、リハセンターなど様々な職場で、他職種と一緒に多くの仕事ができることは、作業療法やリハビリテーションについて多角的に考える良い機会となった。これまでの出会いや経験が、かけがえのない財産であり、これからの原動力になるだろう。

私事では、毎日夫と息子の弁当を作るため、週末に作り置きをするのが習慣になっている。料理を早く美味しく作るコツが、少しは身についたかも？子育てがもうじき一段落するので、何か趣味を持ちたいと思う昨今である。

先輩として何が語れるか。やはり地域で信頼される作業療法士が増えてほしい。若い人たちには、専門知識や技術を身に付けるだけでなく、他分野の人と交流し、地域の活動に参加するなどして、多様な価値観や暮らしを知ってほしい。他職種に自分の考えを伝えるためのコミュニケーション力を養ってほしいと思う。

自分がこれまで多くの人に支えてもらったように、今度は自分が誰かを支える側になれたらと思う。

新人が語る

志雄病院 大島 統也



皆様こんにちは。志雄病院、新人の大島統也と申します。私が新人として働き始めてそろそろ一年が経過しようとしています。作業療法士として働き始め一年目という事もあり、まだまだ知識や技術、経験が少なく、職場の先輩方のご指導頂きながらなんとか日々業務を行っている状態です。当院のリハビリテーション部でも先輩方が昨年度から勉強会や症例報告といった活動を行うようになったため、経験の少ない私にとっても良い勉強の場、刺激となって学んでいます。しかし、患者様を治療するにあたり分からない事が多く、このままではいけないと思い、少ない時間でしたが研修会や勉強会の方にも時間を見つけ参加する事でいろいろな事を学ぶ様にしていました。

就職直後の私は何事にも自信を持つ事が出来ませんでした。しかし、研修会や勉強会に参加した成果が就職直後と比較すると、患者様に出来る事や知識が増え自信に繋がったと思います。

私事ではありますが、就職後実家の方へ戻り職場へと通っているのですが、地元での地域活動等の関わりもあり、昨年は中々研修会や勉強会の方へ参加できていない時が多々ありました。そのため、今後はもっと積極的に研修会や勉強会へ参加する機会を設け、いろいろな角度からの考え方を学び取り入れたいと思います。また、患者様の事を第一に考えた作業療法を展開し、私にできる事を行っていく事で自信へと変えて行きたいと思います。

次は金沢脳神経外科病院の仲佐東さんです。

災害支援に資するリハ専門職の位置づけについて

石川県リハビリテーションセンター 東 ひとみ

11月16日（日）、第14回東海北陸学会で開催された災害対策公開会議に出席した。各県より発災時の会員への連絡手段や研修会の開催等の現状報告がある中、災害経験のある石川県からは、平成19年に発災した能登半島地震における作業療法士の関わりについて報告した。全県からの報告後、出席者や聴講者による質疑応答が行われ、今後も本会議の定期的な開催を望み閉会となった。

本会議に参加し、東日本大震災以降災害リハビリテーションの重要性が高まり、マニュアルの作成や研修会等徐々に活動が増えているが、その活動状況は、数年前から定期的に研修会を開催している県、今年度災害対策担当が決定して活動までには至っていない県等、各県で差ができてきていると感じた。当県も発災から8年が過ぎ、当時の活動を知らない会員が増えているため、他職種との連携をはかった活動が行えるよう、災害時に作業療法士ができることを伝えていくことが必要と感じた。

能登半島地震における作業療法士の活動例



福祉用具の適合



作業の提供

施設紹介

浜野デイケア小島

杉吉 志郎



浜野デイケア小島は、七尾市の中心部付近にある小丸山公園の下に位置します。隣には、浜野クリニックが隣接されており、利用者様の急変時には直ぐに対応できるようになっています。創設は、平成18年、利用定員は40名、利用者様は富山との県境から中能登町までの方が利用されています。平均年齢84歳、最高齢は96歳の方が利用されています。

スタッフは、個性豊かなスタッフが毎日元気に楽しんで働いています。

施設内は、広々とした空間、片面はすべてガラス張りといった開放感があります。浴室は、銭湯を思わせるような大きな大浴槽で、利用者様は、「広くて気持ちいい」と言っています。

浜野のデイケアでの1番人気のサービス「ウォーターマッサージ機」利用者様は、来所後、直ぐにマッサージの順番取りに向かわれ、皆さん、順番取りに必死です。

利用者様の半数は、高齢夫婦の二人暮らし、また、一人暮らしという環境で生活されています。そういう環境の利用者様にとってデイケアとして何が出来るかを考え取り組んでいかなければならないと思っています。自宅内での活動、買い物などの屋外での活動など考えなければならないことが多くあると思います。利用者様が、これからも自宅でできるだけ長く生活していかれるよう考え利用者様と関わっていきたいと思います。



各支部支援活動状況

金沢東支部

金沢大学附属病院 堀江 翔

平成26年度の第3回事例検討会は、2月6日（金）に金沢大学附属病院にて開催した。参加者は25名、事例検討は8演題行われた。回を経るごとに、発表者は変わっているにも関わらずスライドが分かりやすくなってきており、各施設でしっかり検討されていることが伺えた。東支部での発展が県士会全体の発展につながられる様に向上心を保っていきたい。その気持ちも込め今回は全員での集合写真を撮らせていただいた。来年度第1回事例検討会は普段と異なり5月に開催する予定である。変わらず多数の参加を期待している。



金沢西支部

公立つるぎ病院 苗山 卓弘

平成26年度の第3回金沢西支部研修会・事例検討会を2月21日（土）に開催し、研修会に11名の参加、事例検討会に2例の提示があった。今回は「最新の徘徊探知機を体験してみよう!」と題して、福祉用具専門相談員の森恭彦氏を講師に招き徘徊探知機の基礎知識や使用方法の説明を御講演頂いた。また徘徊探知機を利用して模擬事例への適応を考えるグループワークも同時に実施した。グループワークでは意見交換や講師に対する質問も多く臨床につなげる為のヒントとなる機会となった。

来年度も研修会・事例検討会を3回予定しているため多くの参加をお待ちしている。



能登支部

和光苑 福井 朱美

去る2月21～22日に研修会と事例検討会を国民休暇村 能登千里浜にて開催した。21日は恵寿総合病院の高間達也先生より「脳損傷者の自動車運転再開について」と題して脳卒中患者のデータ解析から恵寿総合病院での取り組み、他院や他県士会での取り組みなどについて講演していただき32名の参加があった。22日は事例検討会で発表5演題、22名の参加があった。時間的余裕もあり、活発な質疑応答やコメントがなされた。来年度も研修会、事例検討会への多くの参加をお待ちしている。



加賀支部

介護老人保健施設 葵の園・丘の上 西村 幸盛

2月18日（水）18時30分より、やわたメディカルセンターで、今年度3回目の症例検討会を開催した。40名の参加の中、自分も走者として参加したRUN伴（認知症啓発リレーマラソン）の取り組みの紹介と、6症例の報告があった。冒頭に行われたRUN伴は次年度も実施予定であり、多くの賛同と参加を期待する。症例報告ではうつ病を有した症例や治療に対して拒否的な症例に対して、身体機能へのアプローチだけでなく心理的サポートも実施した症例などが報告された。また、調理や園芸活動など、その人にとって意味のある活動を用いた報告もあった。最後には小松市の障がい者ふれあいフェスティバルや加賀市のこころまちなフォーラムからの協力依頼について、改めて会員一人一人の参加と協力を求めた。



平成26年度 公益社団法人 石川県作業療法士会 連絡会議 議事録

1. 日 時：平成27年1月22日（木） 19：00～
2. 場 所：西泉事務所
3. 出席理事：進藤、寺田、東川、安本、麦井、大西、明福、西谷、小池、渡邊
代理出席者：東（安田代理）
4. 議 事：
 - 【会員動向】 1月8日現在、正会員数703名
 - 【学術部】 麦井）学術雑誌の進捗状況について。2月中旬に印刷予定。
 - 【教育部】 寺田）現職者選択研修で老年期の生活行為向上マネジメントの講義が必須となった。
 - 【在宅支援部 施設】 西谷）診療報酬改定研修会を3月28日開催予定。承認
 - 【社会福祉部】 寺田）医療福祉機器開発ニーズ紹介セミナーが終了。
 - 【健康福祉部】 東川代読）各自自治体で開催されている地域ケア会議について、実施主体がどのような場合に開催しているか、事例の蓄積をもとに報告。平成27年5月に開催する準備を開始。
 - 【事務局】 東川）選挙は公示期日が投票日の40日以前、立候補締切は30日以内。記号式投票になる。
 - 【企画部】 小池）新会員歓迎会は5月16日でANAホリデイイン金沢スカイを予約。承認
 - 【生活行為向上マネジメント委員会】 東川）リーフレットが完成。1月10日に能登支部で1回目の研修会を実施、27名参加。加賀支部は57名エントリー。来年度の大きい研修会は1回、その他各支部で事例検討会を実施する予定。
 - 【平成27年度事業計画、予算について】 進藤）事業計画は理事会承認となる。理事会には監事である後出氏と中川氏に出席いただく。
 - 【その他】 東）東海北陸学会で災害支援の会議に参加。

各支部

- 【加賀支部】 明福）11月19日に第2回の事例検討会を実施。3回目を2月18日に実施予定。
寺田）小松市障害者ふれあいフェスティバルへの協力依頼がある。
- 【金沢東支部】 麦井）11月に第2回事例検討会を実施。第3回を2月に実施予定。
- 【金沢西支部】 渡邊）第3回事例検討会と研修会を2月21日に実施。
- 【能登支部】 進藤）2月21、22日に研修会を実施予定。

次回理事会は、3月11日開催。

インフォメーション

平成27年度 公益社団法人 石川県作業療法士会総会

～表彰式典・新人歓迎会～

日時：5月16日（土） 場所：ANAホリデイ・イン金沢スカイ

平成27年度は役員改選の年です。

総会への出席をはじめ、皆さまの積極的な県士会活動へのご参画をよろしくお願いたします。

第24回 石川県作業療法学会

日時：9月6日（日）

場所：金沢大学付属病院（予定）

第29回 石川県リハビリテーション 風船バレーボール大会

日時：11月21日（土）

場所：いしかわ総合スポーツセンター

この他にも各部・各支部研修会や症例発表会など。詳細は県士会HP随時更新中。

会費納入についてのお知らせ

【納入金額】

石川県作業療法士 会員 ▶ 県士会 会費 5,000円

石川県作業療法士会に新規入会の方 ▶ 県士会 入会費 5,000円 年会費 5,000円 計 10,000円

【納入期限】

平成27年4月末日 ※ただし、納入は4月1日以降でお願いします。

【納入先】

●北國銀行 野田支店 普通 260902

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 進藤浩美

●郵便振替 00720-7-22369 公益社団法人 石川県作業療法士会

※できる限り施設分をまとめてお支払いください。

○施設分まとめて会費を納める場合には、

・北國銀行振込みを利用の場合：同様の内容をメールで以下までお知らせ下さい。

金沢こども医療福祉センター 安本 宛 bclyasu@ybb.ne.jp

・郵便振込みを利用の場合：振込用紙通信欄に施設名、個人名とその会員ごとの金額を明記してください。

【お問い合わせ先】

金沢こども医療福祉センター 安本 宛 bclyasu@ybb.ne.jp



けいじゅヘルスケアシステム
Keiju Healthcare System

作業療法士常時募集

恵寿式地域包括ケアシステムで働いてみませんか!!

- ・多方面の分野でローテーション研修を行い、経験値を積むことができます
- ・新人、新就職者の勤務指導者を決めてフォローしています
- ・多様な勤務形態でワークライフバランスを考慮します

まずはお気軽にお問い合わせください
社会医療法人財団暁仙会本部事務局 総務課
TEL 0767-52-3211

新しい金城大学、はじまる。

大学院 / 看護学部
2015年4月新設



大学院(リハビリテーション学研究所)
多様で実践的な研究を行い、リハビリテーション領域のリーダーを養成します。

看護学部 看護学科
地元自治体・病院との密接な連携により、実習環境も充実。各種医療現場の将来を担う看護師を養成します。

看護学部
「融合・感化しあう3学部の学び」
社会福祉学部 医療健康学部

金城大学 〒924-8511 石川県白山市笠間町1200番地
TEL.076-276-4400 (代表) FAX.076-275-4316
<http://www.kinjo.ac.jp/ku/>

社会福祉学部 社会福祉専攻 [募集人員100人] 看護学部 看護学部 [募集人員80人]
こども専攻 [募集人員50人]
医療健康学部 理学療法学科 [募集人員65人]
作業療法学科 [募集人員35人]

賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
学校法人阿弥陀寺教育学園
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生学生会んやま健康クリニック
医療法人社団千木会
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団同朋会
医療法人社団中田内科病院
医療法人社団福久会
医療法人社団洋和会
医療法人社団輪生会

医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団博洋会
医療法人社団持木会柳田温泉病院
医療法人社団浄心会
医療法人社団博友会
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社アイテム
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
株式会社半田
株式会社ヤマシタコーポレーション金沢営業所
酒井医療株式会社金沢オフィス
セントラルメディカル株式会社
三星自動車販売株式会社
丸善株式会社金沢支店
株式会社メディベック

D会員

医療法人社団あいずみクリニック

会員動向

石川県作業療法士会会員数701名(平成27年2月現在)
認定作業療法士 29名

編集後記

暖かな春を目前に控えた3月。県士会が公益社団法人移行後、早くも1年が経過しようとしている。私は、OTR10年目、現職2年目、編集担当2年目である。人や組織は、様々な経験年数を持っていて、そこには色々な背景、経緯があり未来が待っている。新年度に向けて、短時間でよいので、自分がOTR何年目を迎え、今後どのようなOTRになりたいか考えてみていただきたい。私は、教育現場で、報告・連絡・相談がきちんとできて、患者様の思いを傾聴できる学生を育てることを目標にしている。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：明福真理子、酒野直樹、山本真一郎、杉浦有子、藤田隆司、寺井利夫、川口朋子、中島孝、西川拓志、西村誠次、米田貢、谷内香織、山本幸栄、堀桃子、西出優子、橋本実、小川正人、買手登美子、塩谷真美、平木咲代子、福井清美、前田勝也、中寺智也、入江啓輔、山崎佳子、川口日和、竹内美月、伊関浩克、西出智美、山田ともみ、田中明、犬丸敏康

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：進藤浩美 印刷：ヨシダ印刷株式会社